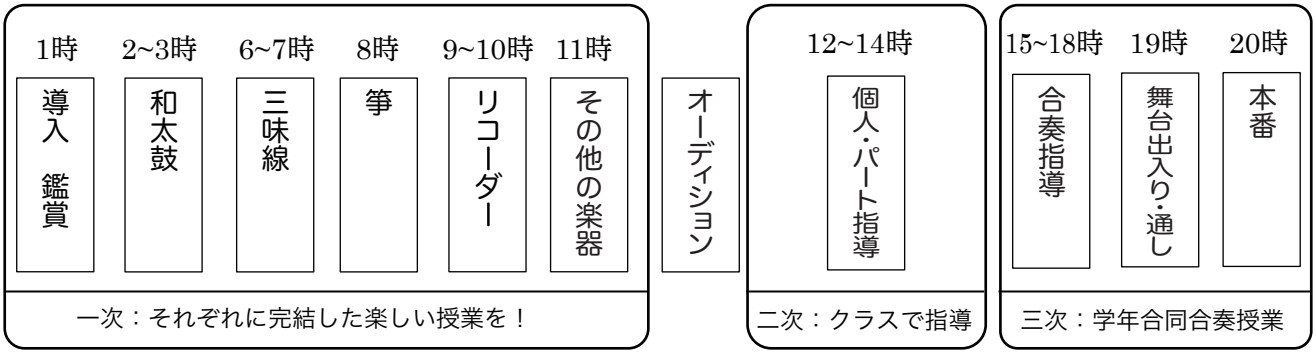
「『子供のための組曲』第５章」に挑戦しよう！

導入の授業でこの曲に出会うと、どの子どもの目も喜びとやる気に輝きます！その思いを原動力として、適切な教材の提示と指導法により、「やってみたい♡」「自分にもできそう♡」「できた♡」「もっとやりたい♡」と子どもの主体的な学びの授業が展開していきます。

授業計画



一次

導入で音源を聴いた子供たちは「無理～♡」と言いながら、目をキラキラ輝かせます！全員が確実にできる各楽器の基本的な演奏指導をします。発展的な内容は休み時間に希望者に指導します。

オーディション

休み時間を割り当てたオーディション計画を明示して、一週間かけて丁寧に行います。和太鼓⇒三味線…の順がお勧めです。オーディションは何度でも異なる楽器に挑戦可とします。

二次

パート譜を手渡し、丁寧に指導していきます（箏、三味線以外はスコアから作成して下さい）。

三次

学年合奏は楽器の準備が大変ですが、合同授業で空いた時間を使ってセッティングします。

・邦楽は、楽器の準備と片付けも演奏者が責任をもちます。舞台への出入りも重要な指導内容です。
・演奏会本番から逆算して、計画的に授業を進めていきましょう。大きな題材になりますが、特に一次は、楽器毎に完結した授業として設定します。和太鼓の授業から入るのがおすすめです。
・小規模校であれば５、６年の合同演奏も無理なくできます。
・紹介した動画は６年生ですが、５年生でも演奏可能です。

授業の準備

和太鼓２台、三味線３挺以上、箏３面以上を最低限そろえる必要があります。先生は三味線の調弦、糸が切れたときの張替、箏の調弦ができるようにして、先生自身が「いざ授業！」の内容を一通りマスターしておきましょう。基本的に和楽器は口唱歌で指導します。楽器分担が決まったら、太鼓の楽譜は拡大コピーして壁に貼っておくと、子どもたちが曲の全容が把握できて学習に有効です。

いざ授業！

導入の授業

４月の始めの授業で校歌や愛唱歌を歌ったりした後、「ところで今年は〇〇演奏会がありますね。〇年生はこの曲を合奏してみようと思うのだけれど、どう？」とＣＤをかけます（『長澤勝俊作品集　人間風土記』日本音楽集団CRD-1077）。いつも100％の支持率でした。

和太鼓の授業（4時間計画）

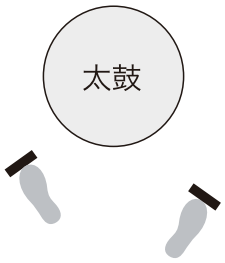
ねらい：和太鼓の演奏の技能を身に付け、和太鼓のアンサンブルを楽しむ。

《和太鼓１時間目》

和太鼓は、牛２頭と樹齢何百年もの木の命が注がれた楽器です。大切に打たせていただく、という気持ちで臨みましょう。
ばちは以下のどちらかの握り方で。

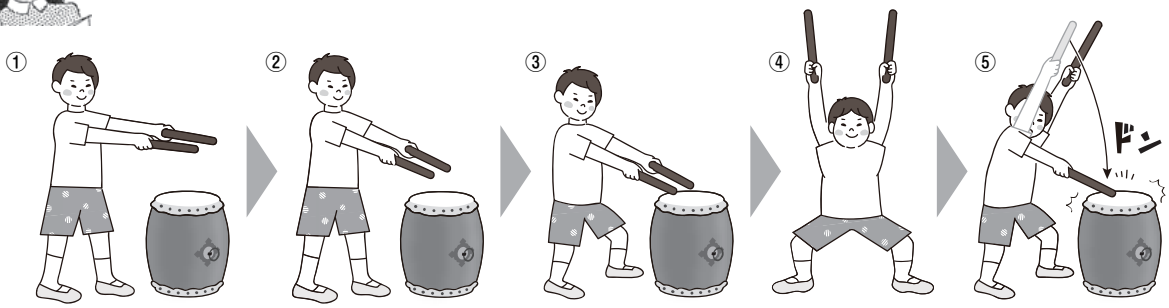
親指と人さし指でしっかりと握り、他の指は軽く添える。

小指と薬指と手のひらでしっかり握り、他の指は軽く添える。



太鼓は据え置き。事前にビニールテープを貼って、足の位置を決めることがポイント。

① → ⑤の動きで子供の「身体」と「心」を開きます。



前へならえ！　腕を少し下げて…　ばちの先端が太鼓に当たるまで腰を割る。　その腰のままで真上にばちを上げて…　打つ！

A のリズムを打ってみましょう！

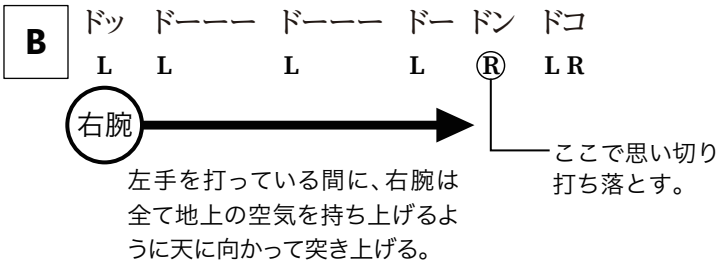
A	ドン	ドコ	ドン	ドン	ドコ	ドン	カッ	カッ
	R	L R	L	R	L R	L	R	L

※ドンは鼓面中央、カッは太鼓の縁打ち。

1）全員で大きな声で唱歌を唱える。
2）ばちを持ったつもりで、空打ちをして、手を覚える。
3）順番に打つ。

《和太鼓２時間目》

今日は、**B** のリズムに挑戦しましょう！



A のリズムと同様に、唱歌や空打ちを有効に用いながら、全員が腰を割って打ち込めるようにします。先生は、生徒の前でしっかり腰を割り、腕の動きでリードし、テンポよく、適切に評価の言葉をかけましょう。

《和太鼓３時間目》

曲の仕組みが分かりますか？

・「カカカカカカカカ」×４小節の後、**A** と **B** を交代して打つこと。
・２回目のときは、**B** のリズムの「ド」は「カ」（縁打ち）になり、華やかさが増すこと。
・作曲者は強弱記号を指示していること。

曲集 p.54：32～43 小節参照

・「カカカカカカカカ」×４小節の部分は、唱歌に大胆に強弱をつけて表現することで、拍を意識させます。

・下の段の入りを唱歌で上手に誘ってください。
「ドン　ウン　ウン　ウン　ウン　ウン　ウン　ウン　はい　ドン　ドン　ドン　ドン　ドコ　ドコ　ドコ」

《和太鼓４時間目》

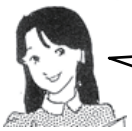
二人組で **A** 、**B** のリズムアンサンブルに挑戦します。できたチームから前で発表。まわりの子どもは口唱歌で応援します！先生も一人一人に肯定的な評価の言葉かけをしましょう。

三味線の授業(2時間計画)

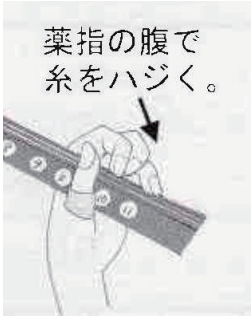
ねらい:三味線の基礎的な技能を身に付け、冒頭部分を演奏できるようになる。

「①２３４５６①２３４①２３４５６」と覚え、打つようにばちを落とすだけで弾けます。開放弦で３本いっしょに弾く①にアクセント、２～６は軽く三の糸のみを弾きます。

曲集 p.53 参照



次は「テンテケテンテン　テケテンテンテン」です。
左手人差し指は、勘所10を押さえます。
右手のばちは、ずっと「テンテンテンテン」と。八分音符を刻みます。それができたら「ケ」のところで、ばちではなく、左手薬指で糸をはじきます。



曲集 p.53 参照

・民謡の三味線簡易伴奏で「ばちはバチッと！」で指導した方法を用いると、すべての子どもに達成感を味わわせることができます。
・授業で全員が取り組むのは、ここまでです。
・第一テーマ（50～59 小節）は、希望者に休み時間などを利用して指導します。

曲集 p.53 参照

1)　左手人さし指で勘所３を押さえ、そのまま薬指を伸ばして勘所４。
2)　三の糸を３回「テンテンテン」とばちで弾いたら、
3)　４回目は、ばちではなく、左手薬指ではじき（ハ）
4)　５回目は、勘所３を押さえていた人さし指で糸をはじきます（ハ）

♥ 授業では、全員が主体的にできることに取り組み、発展的な内容は希望者に指導します。

弾けるようになった子どもは、オーディションで三味線を希望することが多いです。

三次の合奏の授業では…

４拍子２拍子３拍子の難しいリズムも、全員で「ドドウンウンコキ　コキドド　ドドコキコキ」と、日本語の言葉にして唱えることで、いとも簡単に合奏を成立させていきます。

曲集 p.53 参照

１時間１時間の授業でのねらいを明確にして、子どものやる気を原動力として、基本的な技能を確実に身に付け、全員で音楽をつくり上げていく醍醐味を味わっていきましょう。